

二〇一八年度

早稻田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

専門科目

中国語中国文学

コース

※解答は別紙

(縦・横書)

「問一～三の回答順は自由でよいが、必ず問の番号を記してから答えること」

問一 次の十五項目の中から十項目を選び、ごく簡潔に説明せよ。(時代の分かるものは必ず時代を記すこと)

ア 家	イ 蘇軾	ウ 韻図	エ 湯頭祖	オ 儒林外史
カ 昆曲	キ 状語	ク 劉慈欣	ケ 王国維	コ 建安文学
サ 六義	シ 左聯	ス 漢音	セ 西夏文字	ソ 志怪小説

問二 次の「ア」「イ」のうち、いずれか一つの問題を選んで解答せよ。

「ア」次の文を読んで、以下の問いに答えよ。

上愛幸安祿山，呼之爲兒，常于便殿與楊妃同樂之。祿山每就坐，不拜上而拜楊妃。上顧而問之：「不拜我而拜妃子，何也？」祿山奏云：「外國人不知有父，只知有母。」上笑而赦之。祿山豐肥大腹，上嘗問：「此腹中何物而大？」祿山尋聲而對：「腹中但無他物，唯赤心而已。」上以其真而益親之。

(1) 全文を日本語に訳せ。

(王讜撰、周勛初整理『唐語林』より)

「イ」次の文を読んで、以下の問いに答えよ。

① 話說人世百年，總不脫貧富窮達四字。然富的一生富到底，窮的一生窮到底，卻像動搖不得。無怪享榮華的受人多少奉承，受艱難的被人多少厭賤。那受人奉承厭賤的，雖一毫無羞恥惱怒之意，那奉承厭賤人的，卻自以爲是。撮出錦上添花，井中下石，掉那三寸舌，不管人消受得起，磨滅不過。這是怎的說？只因眼裡無珠，把一切當面風光，撇抹了許多豪傑，豈不可惜！豈不可恨！

② 昔是有個王播，未遇之時，讀書木蘭寺中，每日向和尚處投齋。叢林中規矩，小食以後，日色中天，火頭飯熟，執事者撞鐘三聲，眾僧齊到齋堂吃飯。那木蘭寺和尚，十分勢利，看見王播，讀書未就，頭巾四角不全，衣襟遍身破碎，總然有豪氣三千，吐不出光芒一寸。終日隨著眾僧，聽了鐘聲，上堂吃飯，眾僧無不厭賤。更可恨那執事的和尚，使下尖酸小計，直待眾僧飯畢，然後撞鐘。王播聽得鐘聲，蹣跚走到，籬內飯無餘粒，盆中菜無半莖，受此奚落，只得忍耐。未免含慍歸心，淚隨羞下，題詩兩名於壁上道：

上堂已了各西東，慚愧闍黎飯後鍾。

寫罷拂袖而出。③ 後來一舉登科，出鎮揚州，重遊木蘭寺。眾和尚將碧紗籠罩著所題詩句，各各執香，跪仗在地，叩頭而言，說望老爺寬洪海量，恕我輩賊禿有眼無珠，不識好人。那王播微微笑道：「君子不念舊惡，何足介意。」見此碧紗籠蓋之處，乃揭開一看，不覺世事關心，長歎一聲。隨喚左右，取過筆硯，又題兩句於後道：

三十年來塵撲面，今朝方得碧紗籠。

注 王播（七五九—八三〇年）：唐朝宰相。

投齋：求取飯食。

(選自『石點頭』第六卷)

(1) 傍線部①②③を日本語に訳せ。

問三 次の文を読んで、以下の問に答えよ。

- (1) 全文を日本語に訳せ。
(2) 下線部①②③の現代中国語音をピンインで記せ。(声調符号も含む。横書きすること)

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

选自余华《飞翔和变形》，收录于散文集《我们生活在巨大的差距里》

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(次頁へ続く)

——ここから記入すること——

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

—ここから記入すること—

(裏へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——